



〔海の状況 (4/16~5/15) 〕

- ・小川地先の表面水温… 期間を通じて神子平年より平年並み (平年差±0.5℃) ~はなはだ高め (平年差1.5℃~) で推移した。(図1)
※神子平年は、1988年~2017年の神子地先の平均値
- ・米ノ地先の表面水温… 期間を通じて概ね平年並み (平年差±0.5℃) ~はなはだ高め (平年差1.5℃~) で推移した。(図2)

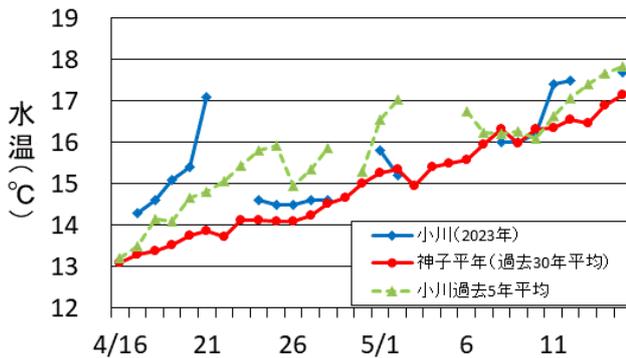


図1 若狭町小川地先における表面水温の推移

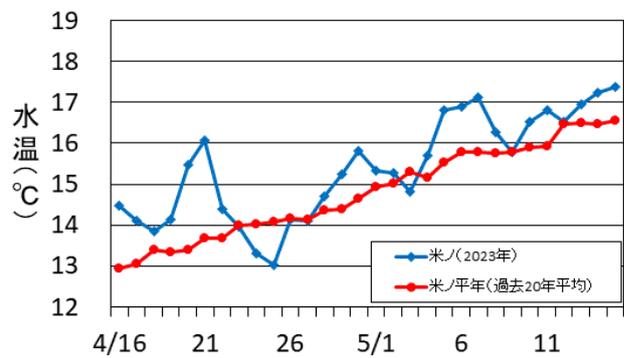


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

※小川過去5年平均は2018年~2022年の小川地先の平均値である。

〔若狭湾および周辺海域の海況：4月〕

4月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、昨年同時期に比べ、表層(水深0 m)では、若狭湾沿岸で16℃~18℃の範囲が大きくなっていた。水深50 mでは、若狭湾沖で12℃~14℃の範囲が大きくなっていた。水深100 mでは、若狭湾沿岸で12℃~14℃の範囲が大きくなっていた。水深200 mでは、若狭湾沖で6℃~8℃の範囲が大きくなっていた。(図3)

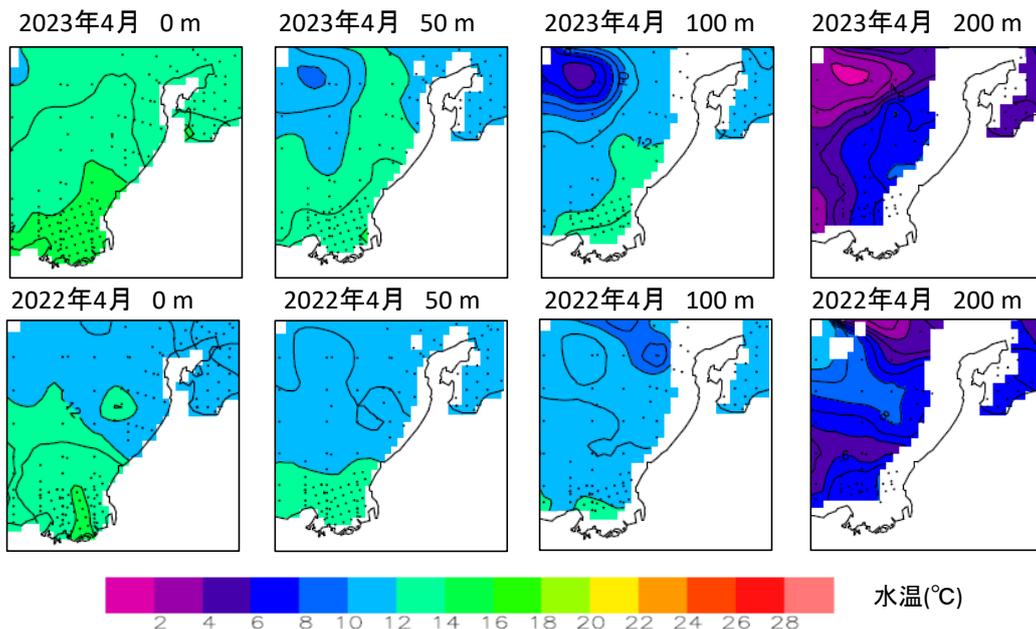


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (水産研究・教育機構の日本海漁場海況速報より抜粋)

(漁場環境グループ 岩崎 俊祐)

2023年度 日本海マアジ長期漁況予報

水産研究・教育機構が2023年4月から9月までの日本海マアジ長期漁況予報を発表しましたので、その概要をご紹介します。

- ・日本海の来遊量は前年（2022年4月～9月）並みで、平年を下回る。
- ・15～22cmの1歳魚が主体で、5～15cmの0歳魚と22cm以上の2歳魚以上も漁獲される。

この予報は、国立研究開発法人 水産研究・教育機構ホームページ (<https://www2.fra.go.jp/xq/>) から閲覧できます。

〔県内の漁模様：4月〕

2023年4月の県内の総漁獲量は598 tで、前年同月（858 t）を261 t下回った。

〔定置網〕

漁獲量は214 tで、前年同月を126 t下回った。ブリ銘柄、ヤリイカ等は上回ったが、イワシ類、サワラ、フグ類は大きく下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は312 tで、前年同月を131 t上回った。スズキ、フグ類等は上回ったが、アカガレイ、ハタハタ、アカエビ等は下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は71 tで、前年同月並みであった。ヤリイカは大きく上回り、コウイカ、タコ類は上回ったが、アマダイ、ヒラメ、メバル類等は下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(4月)

定置網 (kg)					底びき網の続き (kg)						
魚種名	2023年	2022年	平年	前年差	魚種名	2023年	2022年	平年	前年差		
イワシ類	1,222	92,181	23,506	-90,960	-22,284	カレイ類	87,801	120,846	115,401	-33,046	-27,600
アジ類	35,038	28,744	35,064	6,294	-26	(アカガレイ)	59,973	84,585	76,672	-24,612	-16,699
(アジ)	26,362	20,974	18,247	5,388	8,115	(その他カレイ)	27,828	36,262	38,729	-8,434	-10,901
(小アジ)	7,337	4,644	16,029	2,693	-8,692	フグ類	19,352	16,444	8,154	2,908	11,199
(アオアジ)	1,339	3,126	788	-1,787	551	アナゴ	943	3,012	2,494	-2,069	-1,551
サバ類	2,412	4,478	6,049	-2,066	-3,637	ハタハタ	205	29,191	14,417	-28,986	-14,212
マグロ類	11,194	17,370	2,734	-6,175	8,461	メバル類	931	1,133	1,364	-203	-433
ブリ類	100,408	92,945	122,330	7,463	-21,922	ニギス	1,337	2,525	1,492	-1,188	-155
(ブリ)	78,122	26,075	50,737	52,047	27,385	ケンサキイカ	1,155	726	829	430	327
(ワラサ)	19,304	61,598	26,549	-42,294	-7,245	ホタルイカ	133,039	161,894	209,969	-28,855	-76,930
(ハマチ)	1,577	2,655	6,021	-1,079	-4,444	タコ類	1,449	3,941	3,918	-2,493	-2,469
(ツバス)	1,405	2,617	39,022	-1,211	-37,616	アカエビ	32,139	52,482	38,734	-20,343	-6,595
ヒラメ	1,076	1,292	1,826	-217	-751	その他エビ	5,276	10,214	5,290	-4,938	-14
サワラ	17,720	45,857	62,895	-28,137	-45,175	その他	12,050	20,310	24,520	-8,259	-12,469
タイ類	8,670	7,693	14,907	977	-6,237	合 計	312,203	443,177	439,396	-130,975	-127,194
(マダイ)	7,605	7,059	14,276	546	-6,671	釣り、延縄、さし網、その他の漁法 (kg)					
(その他タイ)	1,065	635	631	430	434	魚種名	2023年	2022年	平年	前年差	平年差
クロダイ	1,397	1,289	1,577	108	-180	ブリ類	1,721	1,215	7,828	505	-6,107
スズキ	3,701	4,756	9,807	-1,055	-6,106	マダイ	1,291	1,653	3,436	-362	-2,145
ヒラメ	1,363	1,425	1,558	-62	-195	キダイ	3,385	3,007	2,672	378	712
フグ類	3,544	27,265	65,969	-23,721	-62,424	アマダイ	2,089	4,818	3,920	-2,729	-1,830
スルメイカ	2,572	33	9,423	2,539	-6,851	ヒラメ	1,925	5,426	4,131	-3,501	-2,206
アオリイカ	922	86	116	836	806	その他カレイ	2,099	4,393	8,921	-2,294	-6,822
ケンサキイカ	4,859	903	1,103	3,956	3,757	アナゴ	667	1,034	1,957	-368	-1,291
ヤリイカ	7,877	1,614	2,755	6,264	5,122	サヨリ	1,680	886	2,214	794	-534
コウイカ	4,075	841	1,766	3,233	2,309	メバル類	2,645	10,320	8,021	-7,674	-5,376
その他	6,043	11,605	17,805	-5,562	-11,762	ヤリイカ	16,464	1,383	2,248	15,081	14,216
合 計	214,093	340,378	381,189	-126,285	-167,096	コウイカ	2,410	1,502	2,414	908	-4
底びき網 (kg)					タコ類	8,025	5,879	9,067	2,146	-1,043	
魚種名	2023年	2022年	平年	前年差	平年差	ナマコ類	12,464	13,759	17,077	-1,295	-4,613
サバ	624	2,583	264	-1,959	359	その他	14,383	19,602	38,534	-5,219	-24,150
タイ類	9,427	10,273	6,386	-846	3,042	合 計	71,247	74,876	112,440	-3,629	-41,193
(マダイ)	2,745	4,332	2,588	-1,586	158	全漁法 (kg)					
(キダイ)	6,335	5,643	3,590	692	2,745	魚種名	2023年	2022年	平年	前年差	平年差
(その他タイ)	347	299	208	48	139	合 計	597,543	858,431	933,025	-260,888	-335,482
スズキ	3,835	1,682	2,248	2,153	1,587						
ヒラメ	2,640	5,920	3,919	-3,281	-1,279						

〔近隣府県の漁模様〕

漁獲状況…石川県：4月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：4月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：4月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：4月中旬～5月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。）

石川県…定置網…マイワシ48.0 t、マサバ38.5 t、ブリ28.2 t、ウルメイワシ4.3 t、マアジ2.1 t

京都府…定置網…ブリ2.3 t、カタクチイワシ2.3 t、マアジ1.1 t、サワラ類0.5 t、スズキ0.4 t

兵庫県…定置網…マアジ60.5 kg、スズキ40.9 kg、マグロ24.0 kg、サワラ14.4 kg、ハマチ7.9 kg、マルゴ7.7 kg

鳥取県…まき網…マイワシ48.0 t、マサバ38.5 t、ブリ類28.2 t、ウルメイワシ4.3 t、マアジ0.1 t

遡上アユの孵化日から考える資源増殖手法

○九頭竜川の遡上アユ

内水面総合センターでは、平成18年から九頭竜川でアユの遡上調査を実施しています。河口から1km上流の左岸側にある「いざき親水公園」から川に入り、小型の定置網（袋網）を24時間設置します。そして袋網に入ったアユの数や大きさ、耳石などを分析します。

遡上調査によるアユの時期別採捕数を見ると、アユは3月中旬にはすでに河口で採捕され、その後徐々に増加し、5月上旬にピークを迎えます。それ以降は減少し、6月に入るとほとんど捕れなくなります（図1）。

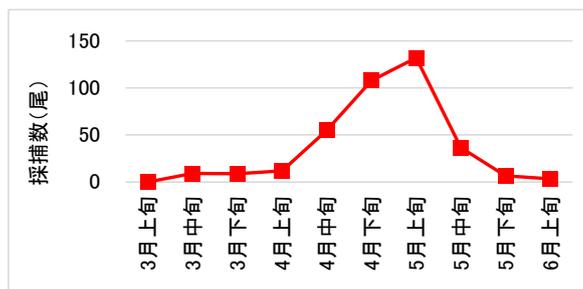


図1 九頭竜川河口での遡上稚魚採捕数 (H18~R4年平均)

○近年の特徴

令和に入ってから、これまであまり採捕されなかった3月にも採捕されるようになりました（図2）。また、平成29年に激減してから数年間低水準だった遡上量が、わずかではありますが、増加傾向に転じました。

今年の遡上量は非常に多い結果となりました。以前、本誌（第54号）でも紹介したとおり、遡上量は前年秋の海水温と関係があることが分かっています。去年の秋の海水温は遡上が多くなる条件（高め）であったことから、今年の結果はその関係どおりであったということになります。

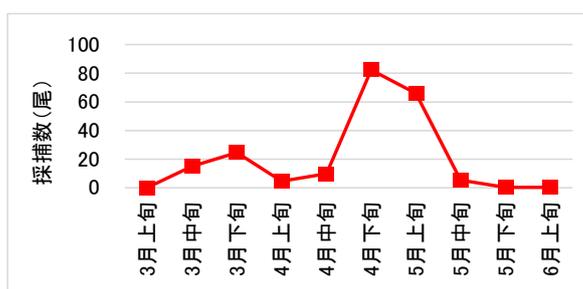


図2 九頭竜川河口での遡上稚魚採捕数 (R1~R4平均)

○これらのアユはいつ生まれたのか？

3月に採捕されたアユ（以下「3月遡上群」という。）と、4月下旬～5月上旬のピーク時に採捕されたアユ（以下「5月遡上群」という。）について、耳石を分析して孵化日を推定したところ、非常に興味深い結果が得られました。

まず3月遡上群ですが、これらは10月に生まれたものが全体の75%を占めていました。一方5月遡上群は、11月以降に生まれたものが全体の96%を占めていました（図3）。つまり、10月生まれのアユも11月以降生まれのアユも海に流された後にしっかりと生き残り、成長し、前者が3月に、後者が5月に遡上してきたということです。近年、遡上量が増加傾向に転じたのは、この「3月遡上群」の存在にヒントがあると考えています。

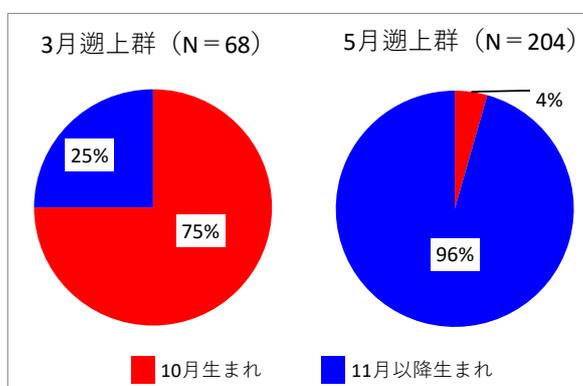


図3 推定孵化時期の割合 (R2~R4)

○アユ資源（遡上量）を増やすために

他県では、仔魚が流下する期間が長きに渡る（長い期間だらだらと仔魚が流下する）ほうが翌年の遡上量が多い、また、早期に遡上する群が多いとその年全体の遡上量が多いという傾向が確認されています。九頭竜川における近年の遡上状況や他県の事例から、資源量（遡上量）を増やすためには、流下した仔魚の海域における生残を良くし、従来の遡上主群である5月遡上群だけではなく3月遡上群も増やすことができれば良いのですが、人為的にはなかなか困難です。我々が出来ることとして、親魚の保護（場合によっては親魚放流）や産卵場造成場所の検討などにより、前年秋の産卵期（仔魚の流下期間）が長期に渡るように工夫することも一つの有効な手段であると考えられます。

（内水面総合センター 橋本 寛）